

## 「1950年代教育史」研究部会（第39回）

日時：2019年9月20日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員  
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）須田将司研究員報告：国立大学附属教育研究所の存在意義—静岡大学の事例と1950年代に機関誌を発行していた大学との比較検討—

◆ 紀要に向けて担当章の構成案（目次）

「第〇章 1950年代における教師の教育研究基盤の形成と展開」

◆ 静岡県内における3教育雑誌体制の成立

- ・『文化と教育』静岡大学教育研究所：理論・アカデミズム「地教法」等は取り扱わず
- ・『教育静岡』『静岡の教育』静岡県教職員組合他：実践的
- ・『静岡公報』静岡県教育委員会：行政側からの視点
- ・特集記事には3誌共通のものも有：「学校経営」「道德教育」「へき地教育」「教研集会」等  
→50年代初め3誌は1本化構想もあったが分立、60年代に統合し『教師の広場』刊行へ

◆ 1950年代に機関誌を発行していた大学との比較

- ・秋田大学学芸学部教育研究所『新教育』、大分大学（師範学校）教育研究所『学芸教育』、大阪教育大学教育研究所『おおさか教育』
- ・60年代までに終刊→経費の問題・文部省の財政的補助など無 存在意義を認められず？

（2）大島宏研究員報告：高等学校分校の経費負担

◆ 紀要に向けて担当章の構成案（目次）

「第〇章 山梨県における高等学校定時制分校」

◆ 山梨の高等学校分校経費

- ・設置は地域の要望によるもの：経費は市町村負担（単独／複数の町村の組合立）
- ・自治庁の見解：県立の分校を町村設置は考えられず
- ・山梨県内定時制高等学校の学校要覧より経費の表を作成
  - \* 山梨県における高等学校費・定時制高等学校費の財源（1950-63年度）
  - \* 定時制課程における県費収入・支出（1950-58年度）
  - \* 定時制課程における県費外収入・支出（1950-58年度）

→1950年代、町村からの寄付金は継続、但し「振興会」等の組織からの形をとっていて要覧には載らず（振興会：町村（教育委員会）・PTA・同窓会などの連合）

- ・次回研究会は、2019年10月25日（金）13:00～。鳥居研究員、西山研究員の報告
- ・次回以降 2019年11月29日（金）13:00～。米田研究員、須田研究員の報告